

# 街画映画多博新

あれこれ ⑥2

「アレックス」

## 松浦 仁

☆

映画は、時間を自在に操れる装置でもある。過去や未来を自由に行き来できる。時間は、過去・現在・未来と一直線に進み、私たちは時間の軸の上存在している。そして、生きていく限り、時間に縛られ、時間から逃れることが出来ない。もし、時間が一方向ではなくジグザグに過去・現在・未来を横断し、あるいは未来・現在・過去と逆方向に動いたらどう

なるのだろうか。現実にはあり得ないことだが、映画の上ではじゅうぶん可能になる。タイムマシンという時空を自由に操られる機械に纏わる数え上げたらきりがなく、この映画を例にだすまでもなく、ではタイムマシンを使わない時間に纏わる映画。「メモント」監督 クリストファー・ノーラン)は、10分前の記憶しかない前向き健忘という記憶障害になった主人公が妻を殺害した犯人を捜すというサスペンスだった。10分の記憶が断片的に繋ぎ合わされて、時間の軸が交錯し、見ているものにちょっとしたためまいすらおこさせる映画だった。さらに、もつひとつ。完全に現在から過去へと時を逆方向に進めたのが、韓国の映画「ペパーミント・キャンディー」監督 イ・チャンドン)だった。

ある中年男の20年にわたる人生の節目が逆回りに進んでいく。鉄道の高架橋に登り、近く列車に向かって「昔に戻してくれ」と叫ぶ現在から、事業に失敗し、妻子とも別れ、初恋の女性との悲しい再会を果たした数日前、事業が好調だった5年前...といつづつに。「ペパーミント・キャンディー」は、20年という時間を逆方向にゆっくりと辿ることで時間の流れとともに忘れられてしまった人間の虚無的な内面を顕在化させていた。

そして、最近見た映画「アレックス」監督 ギャスパール・ノエ)を。わずか一夜の悲劇を逆方向に辿り、分刻みの逆流が緊迫感を徐々に増幅させていく。エンドクレジットからはじまる冒頭から戸惑ってしまっただ。まるで監督のギャスパール・ノエがほくそ笑んでいるかのように、仕掛けたノエの術中に見事にはまり込んでしまったようだ。ザラザラでほんやりとした画面は、おもわず酔ってしまいそうなくらいに揺れながら、時間が退行していく。まるで時間の中を浮遊しているような、なんとも不快な気持ち。映画の進行につれて、目をつぶり、耳を塞ぎさえすれば、もうこの映画を見なくてすむ。一刻も早く席

を立ち、映画館の外に出てこの暗闇から逃げ出したいという気にさえなってしまう。世の中は「もし...していたら」とか「もし...だったら」なんていうことは通用しない。この映画ではほんのちよとした偶然が重なり、主人公のアレックス(モニカ・ベルッチ)が帰宅途中にレイプされたあげく、ポコポコにされて瀕死の重傷を負ってしまう。事件現場である緋色のトンネル内での壮絶なレイプシーンは、時間にして5分だったろうか、10分だったであろうか、それは、できれば時間を飛ばしてほしいと思つくり、とても長く感じられた。

主演のモニカ・ベルッチと言えば、「マレーナ」「マトリックスリロード」に出演、今最も魅惑的な女優、ヨーロッパを代表するスターだ。それが、VFXによってリアルさが増幅されているとはいえ、顔なんかもうグチャグチャ。レイプ

大崎周水堂  
2711486

二〇

映画・洋画資料 デザイン担当  
大崎周水堂  
(271)1416

「アレックス」ではなく「IR REVERSI BLE」なのだ。逆行できないといった意味。のアレックスは、暴力を受ける側の女性。本来、アレックスというのは、男の名前の愛称なのに、あえて主人公の名前をアレックスにしたのは、いかにも意味深だ。明らかに、「時計じかけのオレンジ」のアレックスとの鏡の関係になってる。暴力を振るう側と振るわれる側。加害者と被害者。そして、男と女。

「アレックス」は、4つのリンクエンスが逆方向の時間で進行する。レイプ犯の男の顔を消火器で殴るアレックスの恋人とその友人による復讐劇(殴られているのは犯人ではなく、隣にいる男が犯人だという不条理)、トンネル内でレイプされるアレックス、パーティでハメをはずすアレックスたち、アパートで目覚めるアレックスと恋人。そして、トンネルを抜けたかのように

よつやく辿り着いたのは、「2001年宇宙の旅」のポスターの前に座り、幸福感に包まれたお腹の大きなアレックスだった。

言つまでもなく、「2001年宇宙の旅」は、キューブリック監督の代表作であり、SF映画の最高傑作とされている。



そのポスターは、胎児のショットを撮っている。最終章の「木星、そして無限の彼方」で、ボーマン船長が木星圏のモノリスを発見し、近づくと、まるで時間の歪みをワープするかのようなスターゲートに突入し、18世紀のフランス風の白い部屋へと辿り着く。ボー

マン船長は、その間に年をとり、老人となり、やがて死へと向かうのだが、ラストシーンでは生まれ変わって、胎児の姿をしたスター・チャイルドになり地球へ帰還するのだ。その胎児のポスターだった。そして、「アレックス」のラストシーン。公園の緑の芝生

で寝そべって読書をしているアレックスの周囲で女たちが思い思いにくつろぎ、子どもたちが遊び戯れている。まるで天国のような安らかな世界だ。

「2001年宇宙の旅」での最終章、木星に向かったボーマン船長は、きつとそこ(宇宙人)に遭遇するであろうという、観客の期待を裏切るかのようについに辿り着いたのは2000年前の地球を思わせる真っ白い部屋だった。これもまた時間の逆行である。そして、死から胎児への回帰も、輪廻転生、過去、現在、未来を一つに輪として、繋げることが出来る。そう考えれば、「アレックス」の時間の逆回しのヒントは、「2001年宇宙の旅」の中に隠されているようにおもえてくる。

さらに「アレックス」は、キューブリック監督の遺作「アイズ・ワイド・シャット」とよく比較されるらしい。「アイズ・ワイド・シャット」は、一夜の妄想から快楽を求めて彷徨い歩く男が、結局は妻の手ひらの中にいたという現実と夢が交錯するような物語だった。確かに、「アレックス」を「アイズ・ワイド・シャット」における夢という要素と比較すれば、また別の解釈も出来るだろう。写真「アレックス」のモニカ・ベルリッチ

☆

二

記念品・販促用品・中国掛軸・広告マツチ  
旅行業も致しております。

ハッピーギフトをお届けする...

●大丸 国体道路  
●セントラルホテル福岡  
●九州電力  
●駐車場  
●ホテルニューオータニ

至警固 至中洲  
至六本松 至博多駅

(株) 都屋

本社 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通3丁目6番22号  
TEL (092)771-8833(代表)  
ラッキィ パバサン

小売部 TEL (092) 741-5558  
FAX (092) 781-5221